

日進産業と菊水化学工業が 断熱セラミックGAINAで業務提携

専用下塗材の新商品を共同開発し、 5月7日より販売

(株)日進産業(石子達次郎社長)は4月25日、同社が開発・販売する断熱セラミック「GAINA」専用下塗材の新商品を、菊水化学工業(株)(山口均社長)と共同開発し5月7日に発売するほか、併せて両社が業務提携して菊水化学工業でもKikusui GAINAとして取り扱うことを発表した。

GAINAは、特殊中空セラミックを使用した断熱塗料で、塗布するだけで住宅やビル、鉄道車両、船舶などの断熱・遮熱、防音、消臭、結露防止効果を発揮するものとして開発された。JAXA(宇宙航空研究開発機構)が推進する宇宙開発の成果を広く社会に還元して身近な技術として活用する「JAXA COSMODE PROJECT」の第1号にも選ばれ、国内だけでなく北南米、東南アジア、EU各国、中東など世界44カ国で採用されている。また、同製品は今年の第43回岩谷直治記念賞に続き、このほど平成29年度省エネ大賞審査委員会特別賞を受賞するなどその機能が評価されている。

一方でセラミックスを高い割合で含有する同製品の性能を最大限に発揮するため、密着性と劣化因子防止機能を高める専用下塗材が求められていた。同社はファインセラミックを自在にコントロールする熱ゲル形成法などセラミックの特異性を熟知している菊水化学工業に共同研究開発を持ちかけ、約2年の歳月をかけて下地材料別に最適な4種類のガイナ専用下塗材を開発し、5月7日より販売を開始した。また、下地から仕上げまで一貫した仕様と建築汎用塗料において60年の実績と信頼を持つ菊水化学工業と業務提携を行い、同社でも「Kikusui GAINA」として下塗材の販売に併せ取り扱いをスタートした。



▲新発売のGAINA専用下塗材

会の冒頭、挨拶に立った(株)日進産業の石子社長は省エネ大賞特別賞受賞に対して「今回の受賞は、取ることが非常に難しいとされている岩谷直治賞を昨年受賞したことが非常に大きいと感じている。GAINAは塗膜表面で熱エネルギーを遠赤外線に変えて放出する断熱の厚みを必要としない技術である。近赤外線の反射が良く、遠赤外線の放射が良い材料に行き着くまでに非常に多くの苦労があったが、こうした賞を受賞できたのも材料を信頼して頂いた皆様のお陰である。このたびGAINAが更に使いやすくなるために専用下塗材を菊水化学工業と共同開発した。今後は更に良い物を提供していきたい」と述べた後、新商品の除幕が行われた。

また、業務提携により新たにGAINAを販売する菊水化学工業(株)の山口社長は「創業当初より無機水系塗料に拘り、時代の変化に対応しながらセラミックにも取り組んできた。今回の下塗材はどんな条件下であっても確かな品質が得られるよう共同開発を行ったもの。施工の際には専用下塗材を合わせて使用して欲しい。そして石子社長のより多くの人にGAINAを使って欲しいという想いと、より良い製品を届けたいという当社の理念から、専用下塗材販売に併せてKikusui GAINAの取り扱いを発表した。下地から仕上げまで一貫した仕様とメーカー責任施工により、ハウスメーカーからの戸建て塗替え実績



▲発表された「Kikusui GAINA」



▲握手を交わす菊水化学工業(株)・山口均社長(左)、(株)日進産業・石子達次郎社長(右)

も17000棟までになり当社の柱となっている。今後はメーカー責任施工として塗替え市場に提案していくと共に特販部を設けて拡販に努めていきたい」と語った。

また、今後の展開について記者会見で山口社長は「メーカーズペックで改修需要に対応し、他社との差別化を図る上では非常に魅力的な製品である。業務提携によって更なる両社の発展を目指したい」と語り、石子社長は「これまでガイナが施工された面積は日本の市場の1%もない。だからこそ可能性は無限大だと感じている。専用下塗材の登場で更なる信頼と市場を確保していきたい」と期待を寄せた。

なお、今回発表されたGAINA専用下塗材は以下の4種類。

ガイナ水性カチオンシーラー／ガイナメタルプライマーⅠ／ガイナメタルプライマーⅡ／ガイナマルチシーラー